

『日向ダム湖畔の集い 2023』

農林水産省と国土交通省では、毎年7月21日から31日までを「森と湖に親しむ旬間（じゅんかん）」と位置付け、森林やダム等の重要性について理解を深めていただくことを目的に、各地で森林や湖に親しんでいただくイベントを開催しています。

三陸中部森林管理署では、7月29日（土）に釜石市甲子町にある日向ダムにおいて開催された『日向ダム湖畔の集い 2023』に参加し、岩手県沿岸広域振興局農林部とともに親子木工教室を行いました。

参加した親子が数種類ある木工品キットから選び自分達で形通りにキットを組み立てて釘を打つもので、私達は作り方やコツを教えるなどお客さんのサポートを行いました。



当日は天気が非常に良く、暑い中たくさんの親子連れが会場へ足を運んでくださいました。最初に来てくれたのは小学生くらいの男の子の親子連れで、「巣箱を作りたい！」と満面の笑顔でキットを持ってきました。「トンカチは使ったことあるの？」と聞くと「初めて！」との返答。



最初は慣れない様子でトンカチを使っていましたが、こちらを手伝いながら何本か釘を打っていくうちに次第にコツをつかみ、終盤には上手に釘打ちができるように。あと少しで完成というところで、男の子が打った釘が曲がってしまい、横から飛び出してしまうハプニングが発生。こちらでなんとか釘抜きを使って曲がった釘を引き抜き、無事に巣箱を完成させることができました。



途中、男の子との会話の中で、「この木はね、林業っていう仕事で育てて伐った木でできているんだよ」と話しかけてはみたものの、男の子はなんだか難しげな顔。ただ、巣箱が完成するととても嬉しそうに木工品を抱えてお母さんのもとに走っていきました。

その後も数組の親子連れの木工制作の手伝いをしましたが、中には自分の指をトンカチで叩いてしまい泣いてしまう子がいたり、木を組み立てる時の角度が悪く、完成品がぐらついてしまうこともありました。

今回のこの木工教室での体験がひと夏の思い出になり、将来、森林・林業について少しでも興味を持ってもらうきっかけになったら嬉しいです。